

平成 19 年度国土施策創発調査

四 国 圏 域 の 総 合 交 通 ネ ッ ト  
ワ ー ク 及 び 地 域 資 源 を 活 用  
し た 地 域 振 興 策 に 関 す る 調 査

( 3 ) ジオ ( 地質遺産等 ) を中心とするジオパーク形成に向けての調査

報告書

平成 2 0 年 3 月

国土交通省四国運輸局

# 目 次

1 .	調査目的	1
2 .	調査年度	1
3 .	対象地域	1
4 .	調査内容	2
	・ 四国経済の概況	2
	- 1 . 所得状況	2
	- 2 . 四国の観光の現状	3
	・ ジオパークについて	5
	- 1 . ジオパークの概要	5
	- 2 . ジオパークの経済波及効果	8
	・ 地質・自然・文化資源調査	9
	- 1 . 各種資源情報の収集・整理	10
	- 2 . 地質資源の保護対策・維持管理方法の検討	25
	・ ジオツーリズムについての検討	36
	- 1 . 「ジオパーク」のコンセプト（概念）導入の背景	36
	- 2 . マーケティング戦略	40
	- 3 . 情報戦略	44
	- 4 . ジオツーリズムの企画・立案	46
	- 5 . 住民主体のジオパーク整備のあり方	53
	・ ジオパークを介した環境教育・E S D （持続可能な開発のための教育）についての検討	55
	- 1 . ジオパークが目指す環境教育	55
	- 2 . ジオパークを介した環境教育の可能性	56
	- 3 . 環境教育に係る基礎情報の収集	60
	- 4 . ガイドやインタープリターなどの人材育成について	64
	- 5 . 環境教育プログラムについて	68
	・ 四国ジオパークモデル地域調査及び調査報告会	70
	- 1 . 目的	70
	- 2 . 四国ジオパークモデル地域調査（室戸地域）	71
	- 3 . 四国ジオパークモデル地域調査（仁淀川中流域）	73
	- 4 . 四国ジオパークモデル地域 調査報告会	75
	- 5 . エダー氏のコメント	77
	・ ジオパーク資源の評価手法についての検討	78
	- 1 . 評価対象地域	78
	- 2 . 評価基準について	78

- 3 . 資源評価 . . . . .	82
. ジオパーク実現に向けての検討 . . . . .	95
- 1 . ジオパークのあるべき姿 . . . . .	95
- 2 . ジオパーク実現における計画の重要性 . . . . .	96
- 3 . 運営組織の検討 . . . . .	98
- 4 . 連携による運営状況の改善 . . . . .	100
. 「四国は一つ」としての連携の具体的な	
仕組みの検討 . . . . .	101
- 1 . 連携の考え方 . . . . .	101
- 2 . 四国ジオパーク推進協議会の組織・機能 . . . . .	103
- 3 . ジオパーク運営組織 . . . . .	103
. 全国におけるジオパーク活動の状況 . . . . .	105
. 多様性（ダイバーシティー）に満ちた四国	
ジオパークをめざして . . . . .	108

参考資料

世界ジオパークネットワークに参加するためのガイドライン

ジオパークの自己評価と進捗状況評価用紙

各種資源の集積状況 . . . 地図

地質資源 . . . . . 地図、一覧表

文化財 . . . . . 地図、一覧表

天然記念物 . . . . . 地図、一覧表

四国の特異な植生 . . . . . 地図、一覧表

博物館及び資料館 . . . . . 地図、一覧表

環境団体等 . . . . . 地図、一覧表

酒造 . . . . . 地図、一覧表

食文化 . . . . . 地図、一覧表

食 . . . . . 地図、一覧表

四国ジオパーク検討委員会委員名簿

  同上    検討分科会委員名簿

  同上    WG検討会委員名簿

# ～大地へ回帰！新たな観光資源の創出につながるジオ（地質遺産等）を中心とした四国ジオパークの形成に向けて～

## 1. 調査目的

四国の地域活性化を図るため、四国の特性を生かした独自のジオ（地質遺産等）を新たな観光資源としてとらえ、地域の活性化方策について検討する。また、「四国ジオパーク」として開発・保全することにより、持続可能な地域の形成を図ろうとするものである。

本調査では、ジオを観光資源のみならず教育資源、地域資源としても活用できる可能性を検討し、同時に「四国ジオパーク」を情報発信することで、観光客の視点に立った新たな「ジオツーリズム」を構築するなど、新しい観光形態のあり方等を探ることを目的とする。

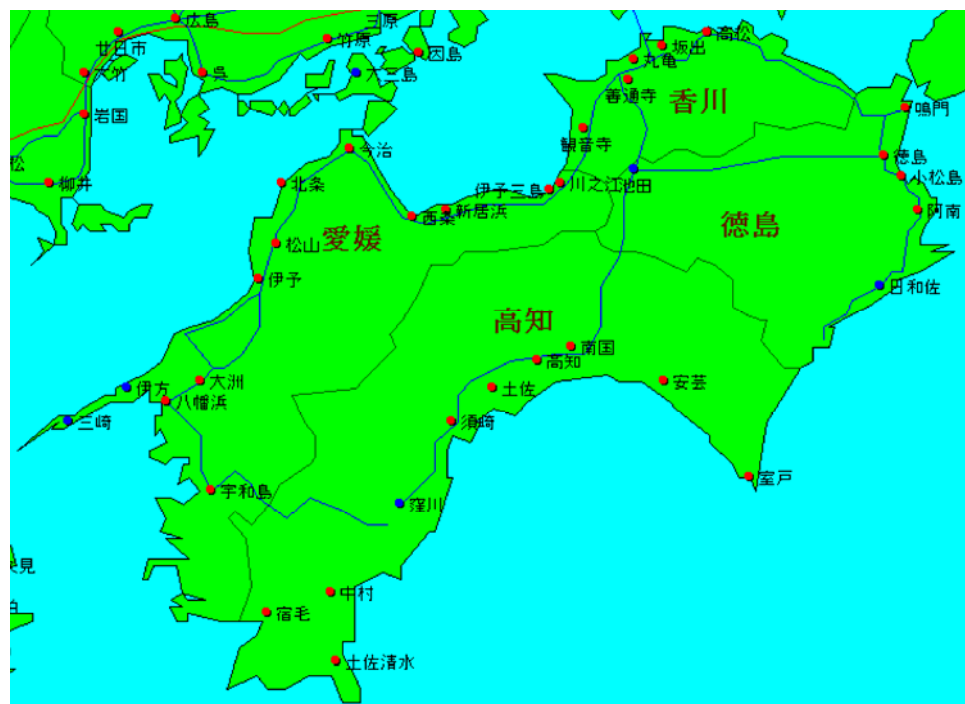
四国は3橋時代以前は、まさに「島」であり経済開発による大規模な環境改変もなかったことから、豊かな自然資源（地質資源、植生等）はもとより多様な歴史・文化資源が残っており、これらを活かして新たな四国の価値創造を行うことが十分に可能である。

## 2. 調査年度

平成 19 年度

## 3. 対象地域

四国 4 県（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）



## 4. 調査内容

### . 四国経済の概況

#### - 1. 所得状況

四国のマクロ経済の動きを県内総支出(実質) - 平成7暦年価格 - でみると、平成15年度は14兆313億円で前年度からの増加率(実質経済成長率)が1.3%とプラスに転じた。

これを県別にみると、徳島県が4.3%、香川県が0.4%、愛媛県が1.5%、高知県が0.4%となっている。全国の前年度からの増加率は1.7%であったことから、四国全体では遅れをとっている。

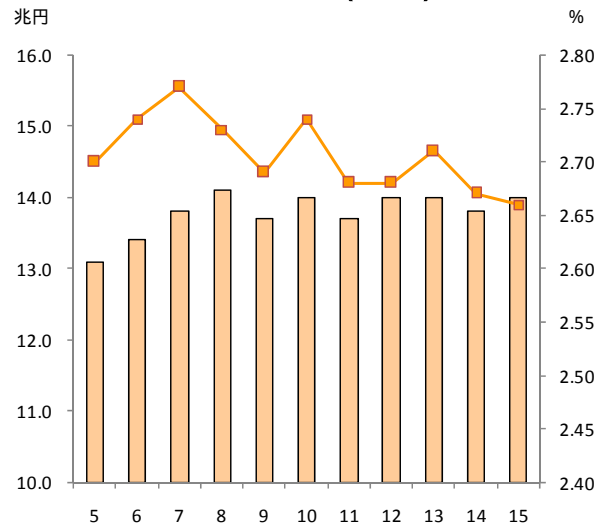
経年変化をみると平成8年度は四国全体で14兆1千億円であったことから、低位水準で移行していることになる。

また、全国に占める割合は2.7弱%となった。近年、大都市圏の経済成長と比較して四国の低迷状態が明らかになりつつある。これは四国の県内総生産をみても同様の傾向にある。

また、四国の一人当たり県民所得(平成15年度)は2,490千円であるが、全国平均2,958千円の84.2%と依然としてその格差は大きく、県別にみると徳島県が96.2%、香川県が89.6%、愛媛県が78.6%、高知県が75.7%といずれも全国平均を下回っている。

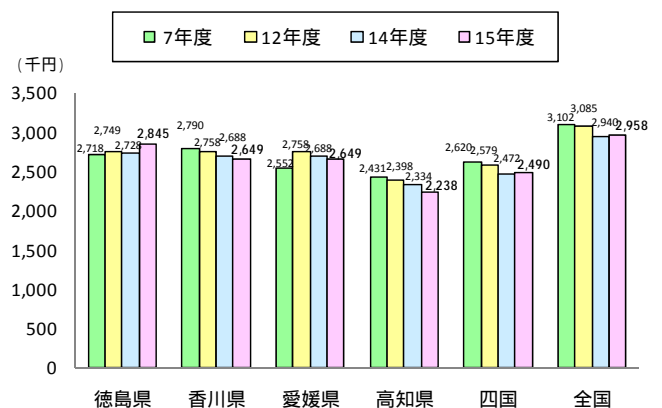
経済指標で見る限りにおいて四国は遅れている地域ということになるが、自然や歴史文化等の面では豊かな地域であり、今後これらの資源の活用が四国地域浮揚の一つの鍵になると考えられる。

四国の県内総支出(実質)の推移



参考資料: 四国経済概観 平成19年度版/経済産業省四国経済産業局編内、  
グラフ「四国の県内総支出(実質)の推移」  
(資料)内閣府「県民経済計算年報」(平成18年度版)

一人当たりの県民所得



参考資料: 四国経済概観 平成19年度版/経済産業省四国経済産業局編内、  
グラフ「一人当たり」県民所得(資料)内閣府「県民経済計算年報」(平成18年度)

## - 2 . 四国の観光の現状

### ( 1 ) 観光入込客の動向

四国内の平成 17 年の観光客入込数（県外客）は、26,094 千人で前年比 3.7%の減少となっている。平成 11 年にはしまなみ海道の開通もあり 30,012 千人であったが、それ以外の年は 26,000 千人から 28,000 千人台で推移している（統計手法が異なることに留意）。

#### 観光客入込数

単位：千人

		平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
徳島県	総数	14,010	11,970	13,138	13,231	13,243	13,158	12,806	12,452
	県外客	7,215	6,159	6,941	7,037	7,021	7,047	7,063	6,906
香川県	総数	-	-	-	-	-	-	-	-
	県外客	8,127	7,709	7,306	7,283	7,378	7,780	8,047	7,893
愛媛県	総数	21,047	26,469	23,720	23,457	23,869	24,192	24,994	23,484
	県外客	6,549	11,173	8,836	8,584	8,517	8,839	8,912	8,225
高知県	総数	-	-	-	-	-	-	-	-
	県外客	5,086	4,971	5,019	5,050	5,163	3,147	3,078	3,070
合計	県外客	26,977	30,012	28,102	27,954	28,079	26,813	27,100	26,094

(注) 香川県及び高知県は県内観光客の統計を行っていないため、合計欄は県外客のみとした。  
高知県ではH15年から推計手法を見直している。

参考資料：四国経済概観 平成19年度版/ 経済産業省 四国経済産業局編内、  
グラフ「観光客入込数」資料：各県観光統計

一方、全国観光入込客（都道府県別観光地入込客統計：数字でみる観光 2007 - 2008 年度版：創成社）は、平成 13 年 23 億 1,454 万人から平成 17 年 28 億 5,523 万人と 23%の伸びを示している（ただし、都道府県によって集計方法が異なるため、あくまで参考値）。

「いわゆる外貨獲得型」「移出型」サービス産業と呼ばれる観光産業においても四国は伸び悩み状況にあるといえよう。

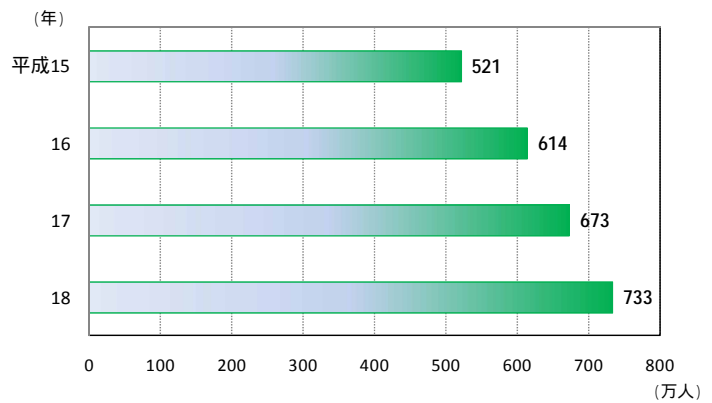
今後は、これまで余り「光」の当たってこなかった地質遺産等を核として、国内はもとより、世界に向かっての新しい観光形態の創出を図り、四国の価値創造に取り組んでいくことが必要である。

## (2) 外国観光客（訪日旅行）の現状

平成 18 年の訪日外国人旅行者数は 733 万人であり過去最高値となった。 ビジット・ジャパン・キャンペーンを開始した平成 15 年が 521 万人であったことから 1.4 倍の伸び率となる。

観光立国推進基本法では平成 22 年に訪日外国人旅行者数 1,000 万人を目標値としているが、現状での訪日外国人旅行者の「四国訪問者数は約 7 万人で、訪問率は 1%程度(四国運輸局調べ)」となっており、寄与率は微々たるものである。今後は四国の観光資源の洗練化及び新たな観光資源の創出を図り、情報発信を活発に行うことによって、数多くの外国人旅行者を四国に誘引することが課題の一つとなる。

### 訪日外国人旅行者数の推移



参考資料：平成19年度版 観光白書/国土交通省編、平成19年

## ・ジオパークについて

新たな観光資源となる「ジオパーク」についての考え方の背景は以下のとおりである。

- (問題点) 全国的に見ても地方の景気回復の度合いが遅く、その中でも四国(特に中山間部)の経済状況は思わしくない。このままで推移すれば、少子化・高齢化に悩む地域は人が住めなくなり、国土保全・維持機能の減衰が懸念されている。
- (課題) 世界的にも展開できる新たな視点(切り口)に立った持続可能な地域活性化の実現(新たな環境共生ライフスタイルの創造も含む)

四国の活性化のためには、ユネスコの提唱する世界ジオパークネットワーク(GLOBAL GEOPARKS NETWORK 以下、GGN と称す)の「ジオパーク」のコンセプトの導入・実践が有効である。

### - 1 . ジオパークの概要

#### ジオパークとは

地質遺産等を保全して地球科学の研究・教育や普及に活かすとともに、それを通じて持続可能な社会の発展に貢献しようとする活動であり、主としてヨーロッパ、近年では中国等において展開されている。

ユネスコの世界遺産との違いは、世界遺産は保護が目的であり結果的に観光に結びついている場合が多い。その結果遺産の破壊が生じているケースもある。ジオパークの場合、地質遺産の保全は当然のことながら、活用による経済活動も重視しており、保全と活用の調和をめざしている。

#### GGN のジオパークが満たすべき基準・ガイドライン

GGN によって世界ジオパークの一員として認証を受けるためには、以下のような基準を満たすことが求められる。(詳細は巻末参考資料を参照)

- (1) 規模と環境：明瞭に定められた区画と十分な面積をもつこと(ただし、面積については規模の制約はない)。単に地質学的に重要なサイトを有するだけでなく、生態系との関わりや、地域の歴史・文化・伝統との関わりを示すことが重要。
- (2) 運営及び地域との関わり：確固とした運営組織と運営計画があること。  
運営組織には公的機関、地域社会、会社などの民間団体、研究教育機関などが参加すること。地域住民と地方自治体を中心として作成され



た地域の文化的価値や伝統を尊重した運営計画に基づき運営されること。尊重した運営計画に基づき運営されること。

- ( 3 ) 経済開発：地域の経済活動の活性化と持続可能な開発がジオパークの主要戦略目標の一つ。地質遺産を観光する「ジオツーリズム」を通じて環境的に持続可能な社会経済開発を育成し、地場産業を活性化する。
- ( 4 ) 教育：博物館、自然観察路、自然観察センターなどを整備し、ガイドブックや地図を発行し、ガイドを養成してガイド付きツアーを行うことにより、多くの訪問者を受け入れ、地球科学や地球環境に関する知識を社会に伝える。
- ( 5 ) 保護（保存）：ジオパークのある国・地域の法と規制、及び伝統に基づいて地質遺産を保護する。
- ( 6 ) 世界的ネットワーク：世界的ネットワークの一員として地質遺産等を守り、地球科学に対する世界の理解を深め、社会の持続的発展を確かなものとし、さらには世界的ネットワークの活動に貢献する。

四国固有の地質遺産等を保全・活用し「四国ジオパーク」の形成を図っていくためには、以上の基準・ガイドラインに則った活動実績（または行動計画）について、ジオパーク申請者が自己評価（採点）し、GGN の審査を受けることになる（参考巻末資料：自己評価用紙）。

( 1 ) から ( 6 ) について評価対象となる各種事業・活動（ソフト事業が主）を実施していけば、自ずと GGN がめざす「ジオパーク＝持続可能な地域づくり」が実現できる仕組みとなっており、明確に進むべき道筋が示されているところにユネスコが支援する世界ジオパークの特徴がある。

こうしたコンセプトが地域に浸透することによって、持続可能な地域づくりに関する様々な応用パターン（例えば、河川流域について GGN のガイドラインに準じた地域づくりを進めリバーパークとして整備を図るといような展開）が可能となり、地域活性化の選択肢が増えることになる。

## 自己評価項目の重み付けについて

GGN に認証を申請する地域（申請者）は、前述の自己評価表に基づいて自己採点しなければならない。その際、留意しておくべきことがある。各項目の中でも運営組織に関する重み付けが最も大きいということである。地質遺産に関する重み付けが大きいのは当然のことであるが、それ以上にジオパークの運営組織の組織構成及び実践力が確固たるものであることが求められている。

持続可能な地域づくりのためには、地域資源が固有のものであるとともに、それらを保全・活用する核となる組織の存在が不可欠であることを示唆している。

分野別重み係数

	カテゴリー	重み係数(%)
	地質と景観	-
1.1	地域	5
1.2	地質遺産の保存	20
1.3	自然文化遺産	10
	運営組織	25
	情報や環境教育	15
	ジオツアー	15
	地域経済の将来性	10
	合計	100

## - 2 . ジオパークの経済波及効果

### ( 1 ) ノルウェーのジオパークの事例

#### ノルウェーの Gea Norvergica Geopark

- ・ 広さ 3946 k m<sup>2</sup>
- ・ 夏場を中心に当ジオパーク周辺には毎年 69 万人の長期滞在者と 1300 万人（1 泊して他地域へ移動）の短期滞在者が来る。ノルウェーの他地域のケースで推計すると長期滞在者の 1 %、短期滞在者の 0.5% が潜在的にジオパークを訪れる可能性がある。よって長期滞在者 7,000 人と短期滞在者 65,000 人の計 72,000 人が毎年ジオパークへのポテンシャルビジターとなる。
- ・ 地域観光分析によると、訪問者は 1 日平均 100 ユーロ（約 1 万 5 千円）を商品やサービスに使う。
- ・ ジオパークへの来訪者が 1 日滞在とし、年間 4 万人が来ると見込んだ場合、経済効果は約 400 万ユーロ（6 億円）と推計される。
- ・ これにより、新たにおよそ 60 の職が創り出され多くの生活を支えることになる。  
（ \* 本ジオパークの GGN への申請書より抜粋）

注：2004 年に活動を始めたばかりであり、今後スタッフの充実、プロモーション活動への取り組み等によって滞在客を増やす方向で整備を進めている。

### ( 2 ) 中国雲台山ジオパークの事例

雲南省焦作市に創設、2001 年 GGN の承認（認証）

- ・ 面積：556 k m<sup>2</sup>、隆起運動と流水の作用によって造り上げられ、自然の生態と文化遺跡を持つ景観が特徴
- ・ 本ジオパークの開発と設立によって、観光業界での雇用は急速に増加し、2004 年末時点で観光業界での雇用は 3 万人を越え間接的な雇用は 22 万人に達した。
- ・ この 3 年間で観光産業全体の総収入は 47 億 7,500 万元（約 716 億円）
- ・ 2004 年のジオパーク訪問客は 805 万人で 1999 年の 17 倍である。
- ・ 観光収入は市の GDP の 8.3% を占める。  
（ \* 地質ニュース 635 号より抜粋：産総研）

注：中国はジオパークの整備に関し国家プロジェクトとして推進しており、ヨーロッパ等と異なる。またジオパーク整備にあたっては、地域を囲い込むような施設整備を行い、国民所得水準から見ると高額な入場料を徴収し、収益を上げている。

## ・地質・自然・文化資源調査

ジオパークを形づくるものは地質資源ばかりではなく、地形によって醸し出される景観、地質によって規定される貴重な植物群落（植生）、生態系、また対象地域に連綿と続く伝統文化芸能、祭り、地域に根ざした暮らしの形態なども関連資源に含まれる。

一見地味に見えるこれらジオサイト(地質資源)だが、優れたインタープリター の手にかかりさえすればその地域の大地創造の歴史と、それに関連した植生を代表とする生態系、そしてそこで暮らす人間の文化が見えてくる。

本調査では、これら資源の洗い出しをまず行った。収集した情報を地図上にプロットし、ジオツーリズム検討および環境教育検討の基礎資料とした。

また地質資源等の永続的な活用のため保護対策及び維持管理方法について検討した。



### インタープリター

自然観察、自然体験などの活動を通して、自然を保護する心を育て、自然にやさしい生活の実践を促すため、自然が発する様々な言葉を人間の言葉に翻訳して伝える人（interpret = 通訳）。一般的には植生や野生動物などの自然物だけでなく、地域の文化や歴史などを含めた対象の背後に潜む意味や関係性を読み解き、伝える活動を行なう人を総称している。（EIC ネット〔環境用語集〕より）

## - 1. 各種資源情報の収集・整理

### (1)地質資源

ジオパークの根幹となる「地質資源」は四国各県の香川大学、徳島大学、愛媛大学、高知大学の地質学等を専門とする教授で構成されるワーキンググループにより各県それぞれで価値の高いと判断される地質資源をまとめた（構成メンバーについては巻末の参考資料を参照）。また地すべり地域や地質関連の博物館・資料館もジオパークの一つの資源としてリストアップし、地図上にプロットした。（注：ここでは四国全体の分布状況を視覚的に判断するために図を縮小している。詳細は巻末参考資料を参照。以下同様）

この図からも分かるように、地質等の専門家から見て四国は、国内はもとより世界的にも通用する地質資源が分布している。



地質資源一覧(徳島県・香川県)

徳 島 県		香 川 県	
番号	名 称	番号	名 称
1	鳴門の渦潮	1	土渚海峡と天使の道・エンジェルロード
2	阿波の土柱	2	段山とオリーブ公園
3	大歩危峡の礫質片岩	3	二十四の瞳映画村(砂洲)
4	穴喰の化石漣痕	4	寒霞溪の火山角礫岩の浸食地形
5	池田の活断層地形	5	銚子溪の安山岩の板状節理
6	鳴門の和泉層群中のデュプレックス	6	中山の千枚田・名水百選
7	穴喰の安芸構造線	7	大坂城石切帳場残石群と大坂城残石記念公園
8	徳島県立博物館	8	吉田ダム
9	ラピス大歩危	9	土庄層群の化石
10	つるぎ町一宇の土釜	10	牟礼町と庵治町の石材加工産業
11	美濃田の淵	11	イサム・ノグチ庭園美術館
12	美波町日和佐のえびす洞	12	石の民俗資料館
13	美波町日和佐の仙羽海岸	13	五剣山八栗寺
14	勝浦町立川溪谷のシルル紀層と白亜紀恐竜産地	14	庵治町白粉峠
15	佐那河内村の御荷鉾緑色岩類	15	屋島
16	木沢村の蛇紋岩・枕状溶岩	16	高松城(玉藻城)
17	木屋平村の森遠地すべり	17	栗林公園
18	善徳地すべり	18	仏生山の高松クレーター
		19	五色台とサヌカイト
		20	香川県立五色台少年自然センター自然科学館
		21	鷲ノ山と石棺
		22	坂出市金山とサヌカイトホーン
		23	丸亀平野と飯野山(讃岐富士)
		24	香東川河床の三豊層群と長尾断層
		25	塩江温泉

注：赤字は日本列島ジオサイト「地質百選」;(社)全国地質調査業協会連合会

NPO 法人地質情報整備・活用機構(GUPI)共編の選定地



地質資源一覧(愛媛県・高知県)

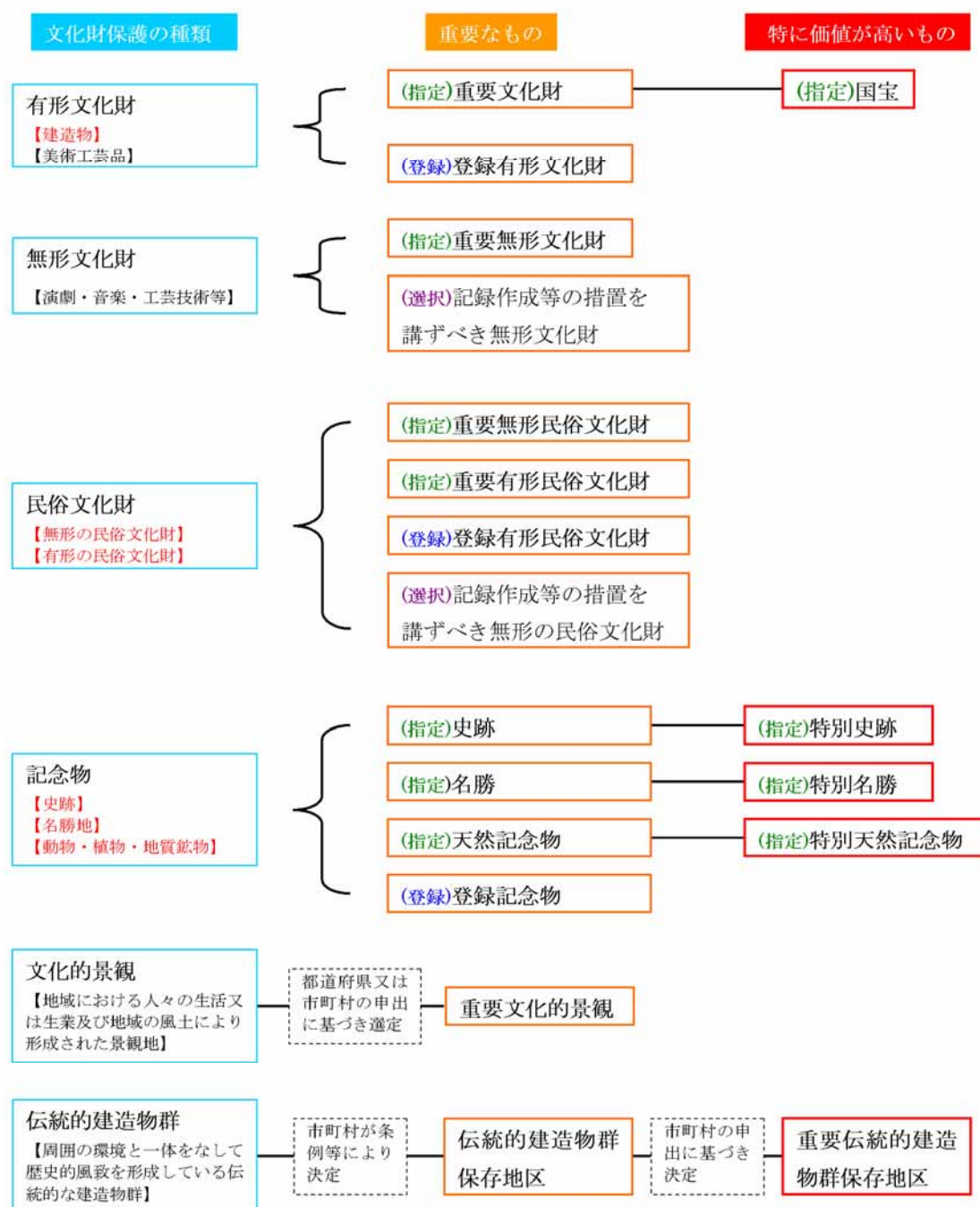
愛 媛 県		高 知 県	
番号	名 称	番号	名 称
1	市之川礫岩および市之川鉾山	1	見残し海岸
2	石鎚山と石鎚コールドロン	2	土佐湾南西海岸の海成段丘
3	別子ライン沿いの三波川変成岩と清流	3	横浪のチャート断崖とクリープ
4	八釜の罎穴群	4	行当岬の四万十累層群の堆積構造
5	四国カルストと枕状溶岩	5	四万十川河口の砂嘴
6	大島変成岩とシェードタキライト	6	室戸の地震隆起地形
7	東赤石かんらん岩	7	室戸の斑糲岩
8	高月山花南岩	8	手結堀込み港と手結メランジュ
9	砥部衝上断層	9	仁淀川河口の砂嘴
10	群中層	10	西分漁港の付加体メランジュ
11	道後姫塚の白亜紀動物化石産地	11	足摺白山洞門
12	古城山の白亜紀動物化石産地	12	大岐海岸
13	名野川越植物群	13	天狗高原
14	石英エクロジャイト岩体	14	土佐清水市の唐船島の地震隆起地形
15	田穂の三畳紀化石(アンモナイト・コノドント)	15	土佐湾南西の海南段丘
16	つづら川の縞状ホルンフェルス	16	日沖の枕状溶岩
17	佐田岬一帯の含銅硫化鉄鉾床群	17	竜串
18	中央構造線(小河谷断層)	18	龍河洞
19	中央構造線(川滝断層)	19	高瀬地すべり
20	中央構造線(湯谷口の衝上断層)	20	長者地すべり
21	花山衝上断層	21	西川ほか地すべり
22	中央構造線(桜樹屈曲)	22	牧野植物園
		23	高知大学海洋コア総合研究センター
		24	佐川町地質館
		25	横倉山自然の森博物館
		26	カルスト学習館
		27	龍河洞博物館
		28	横倉山・佐川
		29	久礼メランジュ

## (2)文化財

文化財は、人類の文化、歴史、学術などの見地から価値をもち、保存を要する有形・無形の遺産全般を指す用語である。

文化財保護法は、文化財を6分野に分類し(参照:文化財保護の体系図)、保存・活用・国民の文化的向上を目的としている。一般には、国・地方公共団体の指定文化財を指すが、本調査では国指定の文化財(下記体系図の赤字項目)をリストアップし地図上にプロットした。

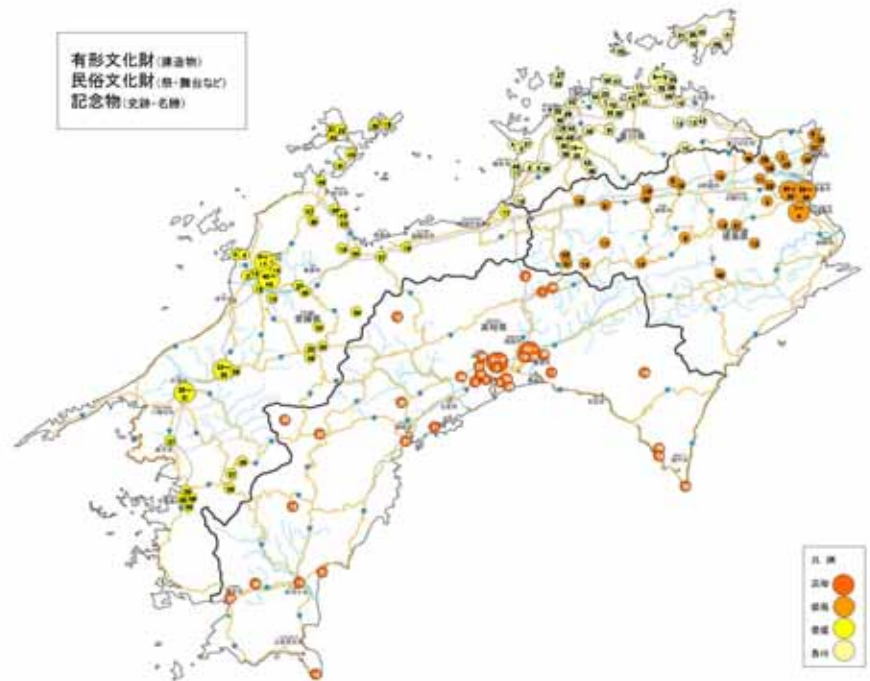
文化財保護の体系図



文化庁 HP <http://bunka.nii.ac.jp/nation/select/system.html>

「文化遺産オンライン 文化財体系図」一部改変





収集した国指定文化財の分類例一覧(抜粋)

(国)は国宝 (特)は特別天然記念物

大分類	小分類	県	主な文化財
有形文化財	建造物	徳島県	木村家住宅(徳島郡三好町東祖谷山村)、箆蔵寺など
		香川県	神谷神社本殿(国)、本山寺本堂(国)、高松城など
		愛媛県	石手寺二王門(国)、太山寺本堂(国)、大宝寺本堂(国)など
		高知県	豊楽寺薬師堂(国)、竹村家住宅、高知城など
民俗文化財	無形民俗文化財	徳島県	西祖谷の神代踊
		香川県	綾子踊、滝宮の念仏踊
		愛媛県	伊予神楽
		高知県	土佐の神楽、吉良川の御田祭
	有形民俗文化財	徳島県	坂州の舞台、犬飼の舞台、祖谷の蔓橋
		香川県	肥土山の舞台、中山の舞台、池田の棧敷
		愛媛県	
		高知県	高野の舞台、八代の舞台、浜田の泊屋
記念物	史跡	徳島県	徳島城跡・丹田古墳、段の塚穴など
		香川県	讃岐国分寺跡(特)、屋島など
		愛媛県	永納山城跡、上黒岩岩陰遺跡、松山城跡など
		高知県	高知城跡、不動ガ岩屋洞窟
	名勝地	徳島県	鳴門、旧徳島城表御殿庭園など
		香川県	栗林公園(特)、寒霞渓など
		愛媛県	面河溪、古岩屋など
		高知県	室戸岬、入野松原など
	動物	徳島県	大浜海岸のウミガメおよびその自生地など
		香川県	-
		愛媛県	-
		高知県	高知市のミカドアゲハおよびその生息地(特)
	植物	徳島県	加茂の大クス(特)、津島暖地性植物群落など
		香川県	宝生院のシンパク(特)、菅生神社社叢など
		愛媛県	新居浜一宮神社のクスノキ群、三崎のアコウなど
		高知県	杉の大杉(特)、室戸岬亜熱帯性樹林および海岸植物群落など
	地質鉱物	徳島県	阿波の土柱、宍喰浦の化石漣痕
		香川県	円上島の球状ノーライト、鹿浦越のランプロファイア-岩脈
		愛媛県	八釜の甌穴群(特)、八幡浜市大島のシュードタキライト、砥部衝上断層
		高知県	千尋岬の化石漣痕、大引割・小引割、唐船島の隆起海岸、龍河洞